

技術戦略プラン 2016 における「通称“石棺方式”」に関する報道について

2016 年 7 月 14 日

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

昨日公表された技術戦略プラン 2016 について、弊機構において通称“石棺方式”を検討しているとの報道がありました。これは事実と異なり、誤解と御心配をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

通称“石棺方式”についての記述は、近年、「なぜデブリを取出す必要があるのか」「石棺という方法もあるのではないか」といった御質問を受けることがあったことから、地元の皆様の不安を解消する観点から、通称“石棺方式”の問題点について弊機構の見解を示すため記載したものです。

戦略プラン 2016 概要版 8P に記載しているように、燃料デブリについては、中期的視点からのリスクと長期的視点からのリスクとの双方を考慮する必要があると考えています。

中期的視点からのリスクとは、現在維持されている一定の安定状態からの逸脱が生じるリスクであり、長期的視点からのリスクとは核燃料物質が将来的に環境中に漏洩するリスクです。

通称“石棺方式”は、中期的リスクの低減に効果がある場合があっても、長期的リスクの低減には限界があり、避けるべきであると考えております。廃炉に当たって長期的リスクを放置することは考えられないことから、通称“石棺方式”を検討している事実はなく、また、燃料デブリについては取出すことを前提に技術的な検討を行っているところです。

記述のなかで、「今後明らかになる内部状況に応じて柔軟に見直しを図ることが適切である」との記載が、通称“石棺方式”を検討しているとの誤解を生じさせたものと思われます。燃料デブリの取出しにおいては、取出しの作業と周辺の調査とが一体となって繰り返されることを想定しており、上記の記述は、一般論として、内部状況に応じた柔軟な技術的判断と不断の戦略見直しが必要であることについて説明したものです。

引き続き、より一層正確な情報発信及び丁寧な説明に努めてまいります。